

1 事業の成果

- ① の事業では、千葉県・茨城県・福井県・静岡県・柏市の5自治体の保健所から、犬228頭、猫468頭の合計696頭を引き取り保護した。また前年度に引き続きスタッフ教育の強化を行った。施設の増改築は修繕およびメンテナンスにとどまった。※山梨県・船橋市との協力関係は継続しているがタイミング等のミスマッチで受入は行わなかった。
- ② の事業では犬188頭、猫411頭の合計599頭を新しい飼い主に譲渡した。飼育管理効率の指標である保護から譲渡までの平均滞在日数は、犬43日、猫76日であった。また保護後の死亡率は犬1.3%、猫9.4%であった。また譲渡した犬のうち、少年犬および成犬(※)は39頭、生後1年以上の成猫は35頭であった。 ※生後半年以上を少年犬、1歳以上を成犬と称する。
- ③ の事業では、幼齢不妊手術に関するホームページの訪問者数はのべ約5千人、飼育やしつけに関するホームページの訪問者数はのべ約32万3千人であった。
- ④ の事業では①で保護した犬223頭、猫433頭と、外来の猫1頭の合計457頭に不妊手術を実施した。
- ⑤ の事業では、より多くの方に向けて情報を発信するため、動画での活動報告や犬猫の紹介を開始した。なお、全事業の合計ホームページ訪問者数はのべ約200万人であった。
- ⑥ の事業では、新規事業開拓のためのニーズの調査、分析等を実施した。
- ⑦ の事業では、新規事業開拓のためのニーズの調査、分析等を実施した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
①行政施設で殺処分される犬猫を引き取り保護・飼育する施設(アニマルシェルター)を運営する事業	保健所や愛護センターなどの行政施設で殺処分直前の犬猫を施設に保護して、譲渡のための健康管理やしつけ等を行う。 また、譲渡が困難な犬猫については、施設で生涯飼育する。	随時	法人事務所	21名	千葉県、茨城県、福井県、静岡県、山梨県、船橋市、柏市の7自治体

F- 2ページ

②行政施設から引き取った犬猫に不妊手術を施し、新しい飼育者へ譲渡する事業	前記事業で保護した犬猫たちに不妊手術を施し、新しい飼い主に譲渡する。	随時	全国	15名	犬猫の飼育を希望する不特定多数
③幼齢避妊去勢手術の普及と犬猫の適正な飼育を啓発する事業	団体ホームページで幼齢不妊手術についての情報提供や啓発を行う。	随時	法人事務所	2名	不特定多数
④幼齢避妊去勢手術を主たる目的とした動物病院事業	団体が保護中の犬猫の不妊手術および、保護団体や個人が保護する犬猫を対象に、幼齢不妊手術外来を提供する動物病院を運営する。	随時	法人事務所附属の動物病院	5名	犬猫を保護する団体や個人
⑤この法人の特定非営利活動に係る事業に関する情報提供・サービス事業	主にインターネットを通じて、前記事業すべてに対する情報発信を行う。	随時	法人事務所	3名	不特定多数
⑥その他この法人の目的の達成のために必要な事業	新規事業を模索し、開拓し、立ち上げるために必要な調査・研究・準備等を行う。	随時	全国	2名	不特定多数

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数
⑦ ・ペットホテル事業、 ・ペット霊園事業 ・通信販売事業 ・損害保険代理業 ・ドッグラン事業 ・物品販売事業 ・飲食事業 ・前号に該当しない動物病院事業	本来事業の助けとなるよう、定款に規定されたその他の事業についての調査および研究を行う。	随時	法人事務所	2名

以上

2022 年度 活動報告

いつも当団体活動をご支援くださり誠にありがとうございます。2022 年度の活動報告をさせていただきます。

<犬と猫の保護と譲渡について>

【図1】2022 年度の犬と猫の譲渡目標

年度目標	受入数	譲渡数（うち成犬・成猫）	平均滞在日数	死亡率
犬	-	-（50 頭）	30 日以下	5%以下
猫	-	-（50 頭）	60 日以下	10%以下
合計	-	1000 頭（100 頭）		

今年度は年間の譲渡目標を犬猫合計 1000 頭としておりました。また増え続ける成犬・成猫たちにもチャンスを増やそうということで、そのうち成犬 50 頭、成猫 50 頭の譲渡も目標としていました。これらを実現するための目安として、譲渡までの滞在日数と死亡率の目標も立てていました。結果は下記の通りでした。

【図2】2022 年度の犬と猫の譲渡実績

実績	受入数	譲渡数（うち成犬・成猫）	平均滞在日数	死亡数／死亡率
犬	228	188（39）	43	3／1.3%
猫	468	411（35）	76	44／9.4%
合計	696	599（67）	-	-

※譲渡数には当年度以前に保護した子を含みます。

概要

目標であった年間 1000 頭に比べると 6 割程度の達成にとどまりました。うち成犬・成猫の譲渡はそれぞれ 50 頭の目標には届かなかったものの、特に怖がりな成犬の譲渡が困難な状況下で一定の成果を残せたと考えています。

なお、施設の来客者は犬面会が 435 件（譲渡率 43%）、猫面会 609 件（譲渡率 67%）でした。

※ウェブサイトからのお申込を機械的に集計し、名寄せはせず再お申込は重複カウントしています。

犬について

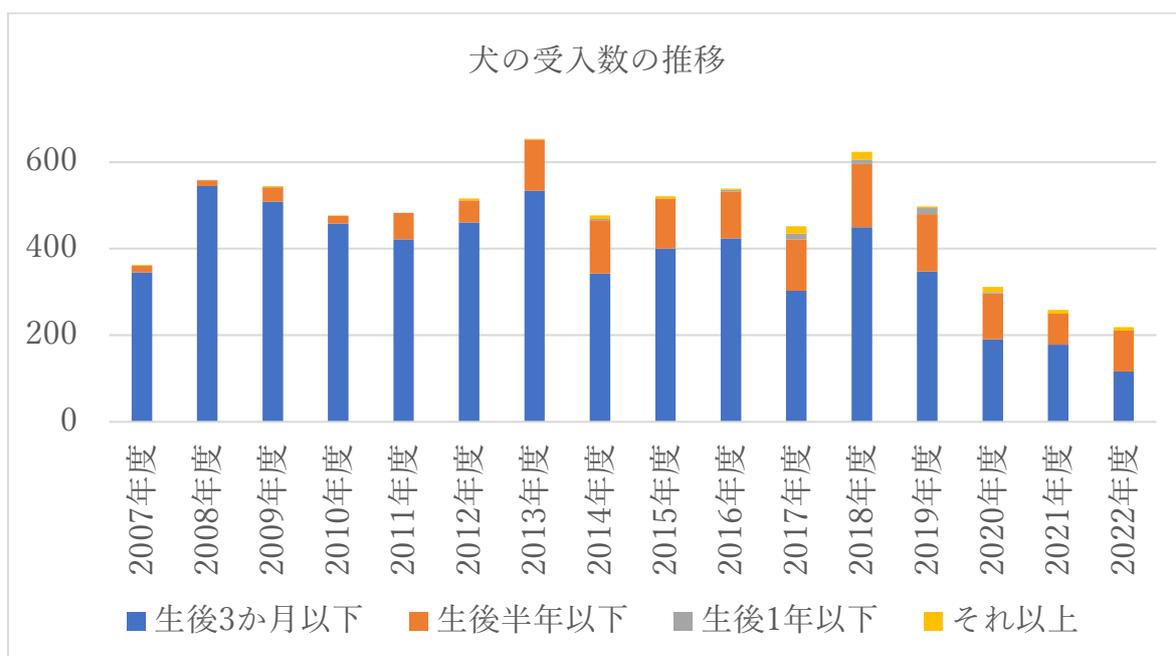
【図3】 犬の受入と譲渡の推移

犬	'16年度	'17年度	'18年度	'19年度	'20年度	'21年度	'22年度
受入	557	460	634	510	329	266	228
譲渡	531	476	575	523	390	274	188
死亡	3	3	12	8	7	1	3
死亡率	1%	1%	2%	2%	2%	0.4%	1.3%
滞在日数	32日	28日	35日	37日	30日	29日	43日

犬の受入の減少は近年の殺処分減少によるものです。当団体が受入を行っている自治体のうち千葉県・茨城県を除けば犬の受入の要請がほとんどなくなりました。千葉県・茨城県はまだまだ保護数の多い自治体ですが、譲渡しやすい子犬や純血種の犬については飼育希望者が順番待ちをしているような状況です。解決の目鼻はついていけると言えます。

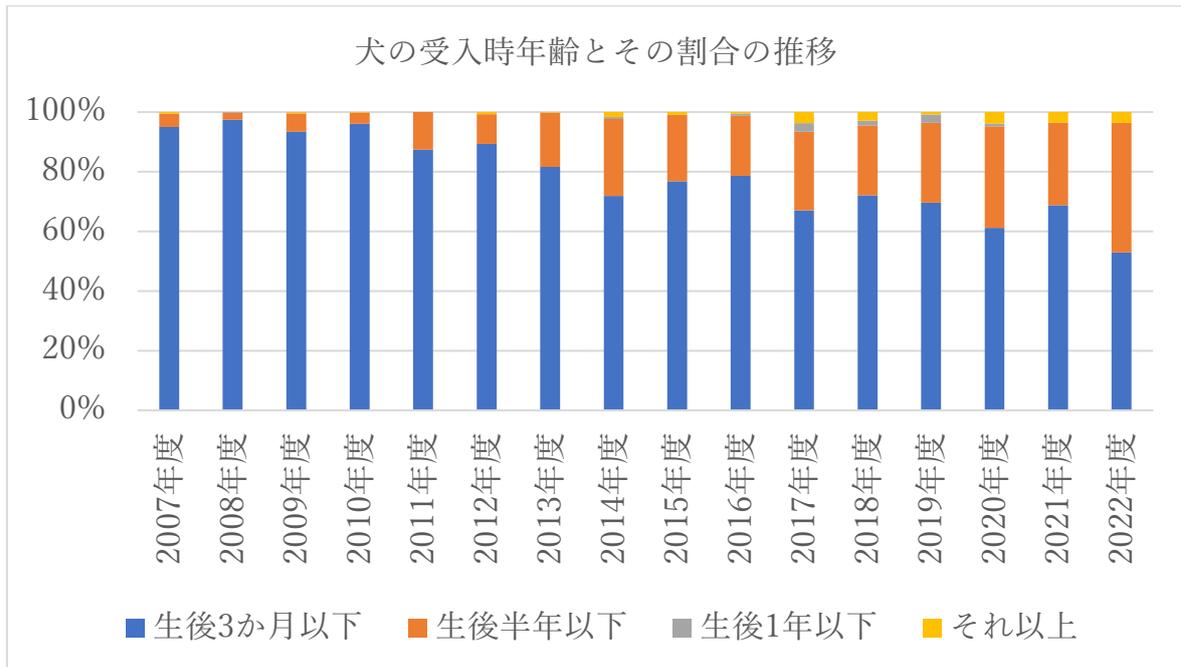
一方で保健所から受入要請のある犬のうち、怖がりだったり大きくなってしまったりで譲渡が困難な子の割合が大きくなってきています。こうした状況から譲渡が滞り、滞在日数を増やしてしまう結果となりました。

【図4】 犬の受入数の推移



殺処分の減少に伴い全体の保護数は減少傾向にあります。

【図5】 犬の受入時年齢とその割合の推移



一番譲渡がしやすい生後3か月以下の子犬の受入が減り、生後4か月～半年以上の譲渡が難しい傾向にある子の割合が増えています。

譲渡促進のために2022年1月に開始したYouTubeでの動画紹介は、約1年後には1000人以上の方々にフォローしていただいています。譲渡につながるためのPRとしても、「ユーチューバー」としてもまだまだこれから数字ですが、普段はお伝えしにくい活動の空気感を知っていただく機会になり、辛い温かいコメントも頂けるようになりました。

猫について

【図6】 猫の受入と譲渡の推移

猫	'16年度	'17年度	'18年度	'19年度	'20年度	'21年度	'22年度
受入	654	822	810	770	560	591	468
譲渡	616	716	723	731	509	549	411
死亡	37	87	64	48	62	31	44
死亡率	6%	11%	8%	6%	11%	5%	9.4%
滞在日数	66日	85日	97日	81日	71日	54日	76日

猫も前年度を大きく下回る結果でした。保健所に持ち込まれる猫が減っている傾向ももちろんありますが、例年以上に譲渡に苦戦した1年間でした。原因としては下記のようなものを考えています。

- 1 社会全体で保護猫をもらえる場所が増えたため、相対的に当団体でもらう機会が減った。

F- 6ページ

2 団体として「たくさんの猫を保護していて1日でも早くもらってほしい時期」と、里親さん目線で「生活環境などを整えたりご家族がそろったりで、猫を飼い始めやすい時期」にミスマッチがある。

1についてはポジティブな理由ですが、2については他の団体や個人で活動する方も同様の苦勞をしているという話を耳にすることがあります。少子高齢化で猫を飼える人も減っていく中、団体間で里親さんを取り合うような状態は本質的ではありませんので、議度だけではなく解決法も模索しています。

<外来不妊手術について>

自ら保護した動物たちの医療を優先したため1件のみお受けしました。

<人材教育・人材活用の強化について>

2019年度後半にスタッフ教育の強化に着手してから3年以上が経過し、教育という点で一定の成果を残すことができました。

具体的には「職人芸」になりがちな動物のお世話のスキルについて、マニュアル化を進めたり、評価基準を明確化したことで、各スタッフのできること・できないことも明確になりました。結果としてその後のスキルアップに活かすことができました。そして以前よりも多様な年齢層・多様な働き方のスタッフが、より広い業務で活躍してくれるようになりました。

一方でスタッフの定着率が低いという課題には非常に苦勞しています。

当団体がボランティアではなく有給スタッフを中心に活動しているのは、保護したら途中で辞めることのできない活動の性質から、その継続性を大切にしているためです。また本当に社会に必要な活動であればプロがいて然るべきだろうとも考えています。

ところが現実問題としてフルタイムスタッフとして入社してくれる方の平均在籍期間は2年ほどで決して長くありません。せっかく仕事を覚えてもらっても2年で辞めてしまっただけではより高度な仕事を担ってもらうことはできず、結果として団体の活動レベルも上がっていきません。

原因は複数考えられますが、多くの動物を保護するために若いスタッフの長時間労働に頼ってきたことは少なからず悪影響を与えていると考えています。ボランティア精神を持って活動することはもちろん必要ですが、仕事として担う上で必要な労働管理等もしっかりと行うことでスタッフが継続的に活躍しやすい環境を整えたい考えです。

<施設設備の改善や新設について>

F- 7ページ

成犬たちの見栄えが少しでも良くなるよう、解放スペースにウッドデッキを設置しました。DIY で制作する様子は動画でも公開し広報を兼ねる試みも実施しました。他の設備等については故障・老朽箇所のメンテナンスにとどまりました。

<収支・決算について>

活動を続けていく上ではお金の問題もとても大切なためご報告させていただきます。

詳細は決算書でご確認いただけますが、年間の日常活動の収支は約2,000万円もの赤字と厳しい結果でした。ありがたいことに期中に二名の方にご遺贈を賜り、ある程度の資金的な余力がありますが、それでも収支の大幅な改善が必要な状況です。

物価や光熱費の高騰、人件費と社会保険負担の増加など非常に難しい状況ではありますが、振り返ってみれば創業以来20年間あまり、山あり谷ありの活動でした。その日に犬猫たちにあげる年詰代さえ節約しなければいけない日々もありました。そうした中で培ってきた力を今こそ発揮して乗り切って参ります。

<新型コロナへの対応について>

3月13日からはマスクの着用が個人判断となり、当団体でもルールを緩めました。5月8日には位置づけを季節性インフルエンザと同じにすることが決まっていますので、平時に戻ったと認識しています。

以上が2022年度の活動報告です。

今後とも皆様のご支援ご声援をよろしくお願いたします。

2023年5月吉日
NPO 法人犬と猫のためのライフポート
理事長 稲葉友治